

表 A.3—順守義務に関係する、取り組む必要があるリスク及び機会並びにこれらへの取組みの例

順守義務	取り組む必要があるリスク及び機会	取組みの計画策定
新しい法的要求事項	<p><b>リスク（潜在的で有害な影響）</b> 新しい又は変化する順守義務の特定及び順守における不備は、組織の評判を害し得るほか、罰金につながり得る。</p>	規制動向の監視が、新しい要求事項の特定を改善するために有効であることを確実にするための管理プロセスを策定する。
規制当局が要求する情報	<p><b>リスク（潜在的で有害な影響）</b> 対応の不備若しくは遅延又は不正確な対応は、規制当局からの調査の拡大につながり得る。</p> <p><b>機会（潜在的で有益な影響）</b> 適切な時期に、主体的に行われ、かつ、透明性のあるコミュニケーションは、組織と規制当局との関係を強化し得る。</p>	<p>報告時期を含む、規制当局員からのコミュニケーションの受け付け及び対応のためのより有効なコミュニケーションプロセスを策定する。</p> <p>コミュニケーションの適時性及び透明性を改善するための推奨を行う内部監査プログラムを適川し、必要に応じて、コミュニケーションプロセスの継続的改善のための処置をとる。</p>
使用後の製品の引取りに関する地域顧客の要求事項	<p><b>リスク（潜在的で有害な影響）</b> 必要な資源の増加、及び地域での製品の引取りの支援のための運搬の増加は、製品の単位当たりのコストを著しく増大させ得る。</p> <p><b>機会（潜在的で有益な影響）</b> 世界規模での全顧客に対する製品の引取りの実施は、環境に責任をもつ組織としての評判を向上させ、新規事業の機会につながり得る。</p>	資源の保全及び原材料のコスト削減のため、引取りプログラムを支援する製品の再生産の設計を策定し、実施するための目標を確立する。

表 A.4—その他の課題及び要求事項に関係する、取り組む必要があるリスク及び機会並びにこれらへの取組みの例

その他の課題及び要求事項	取り組む必要があるリスク及び機会	リスク及び機会への取組み
炭素税（アセットマネジメントの組織、金融サービスの組織）	<p><b>リスク（潜在的で有害な影響）</b> 低炭素経済への移行によって、燃焼に利用できない可能性がある既知の埋蔵石炭のような、座礁資産（stranded assets）</p> <p><b>機会（潜在的で有益な影響）</b> 再生可能エネルギー又はクリーン技術への投資によって実現した、財務利益の増大</p>	再生可能エネルギーへの投資の拡大及び排出集約分野への投資の縮小によって、ポートフォリオを多角化するための目標を確立する。
水不足（飲食料品分野の組織）	<p><b>リスク（潜在的で有害な影響）</b> 限定的な水の利用可能性による、生産の制約</p> <p><b>機会（潜在的で有益な影響）</b> プロセスの最適化を通じて実現した、効率性の増加</p>	<p>生産プロセスにおける水の損失を低減するための、工学的な管理を適用する。</p> <p>パフォーマンス指標を確立し、製品の単位当たりの水使用量を監視・測定する。</p>